

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立塩田小学校
1 前年度 評価結果の概要	・タブレット端末の活用について分かりやすい授業づくりへの活用ができています。今後は、学年の段階に合わせてオンライン等の授業を見据えた活用の進め方を探っていく。 ・地域や外部団体との連携を図り、体験活動や支援の必要な児童等に対応していく組織づくりを図る。 ・行事内容や校務分掌等の見直しを図り、業務改善や働き方改革を進めていく。
2 学校教育目標	元気に がんばる 塩田っ子の育成
3 本年度の重点目標	○地域・家庭との教育力の連携（コミュニティとの活動及び家庭学習・家読の奨励） ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（校内研究：自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業づくり）

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童が分かる、できると思う授業の充実 及家庭学習の推進	○「タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童が85％以上を目指す。 ○日々の学習で「家庭学習（各学年の目標）ができた」と回答した児童が80％以上を目指す。	・毎月のノーデジタルデーの際に家読を推奨する。 ・家庭学習強化週間を設定する。（年2回） ・タブレット端末の研修会（プログラミング教育を含む）を年2回以上取り組む ・学年に応じた内容でタブレット端末を活用した授業やプログラミング教育を実践した授業（授業参観も含む）を年間5回以上実施する。	B	・「タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童は93％であり、ほとんどの児童がタブレットの有効性を実感している。タブレット端末の研修会も行っているため、今後の授業にも生かしさらに分かりやすい授業を目指していく。 ・日々の学習で「家庭学習（各学年の目標）ができた」と回答した児童は87％で、目標の80％には達することができた。また、毎月のノーデジタルデーの際の家読の実施率も78％となり、昨年度よりも伸びている。しかし、目標値の80％まではもう少しなので、今後も取組を続けていく。	A	・「タブレット端末を活用した授業は分かりやすい」と回答した児童は98.9％、保護者は99％であり、児童、保護者共に前回の調査よりさらに有効性を実感していることが分かる。これは、各クラスが日々タブレット端末を活用した授業やプログラミング教育を実践した授業に取り組んでいる成果である。 ・日々の学習で「家庭学習（各学年の目標）ができた」と回答した児童は、81.7％と目標に達することができた。しかし、保護者は、47.5％と低く、児童の実感とズレがあった。これは、家庭学習の課題はプリント等だけでなく、タブレットによる課題や読書などに多岐に渡っているが、保護者はプリント等だけが家庭学習と感じているのではないかと考える。学習の課題への捉え方にズレが生じているようなので、学習の内容や課題について理解して頂けるように懇談会やお便りなどでお知らせし、共通理解を図っていきたい。また併せて、保護者が「子供の宿題等に目を通して」いる値も57.6％と低かったため、学習内容に目を通してもらえるような取り組みも行っていきたい。	A	・妥当である。 ・家庭学習について、保護者はプリント宿題だけと感じているのではないかと。自ら積極的に学ぶ児童を育てたい。 ・全部の児童がタブレット活用が分かりやすいと回答してほしい。	かしくプロジェクト
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重すること、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が95％以上を目指す。	・全校でのふれあい道徳の実践 ・道徳の授業について道徳日より、学級通信等で年2回は知らせる。	B	・10月にふれあい道徳を計画し、それに向けて準備を行っている。 ・学級担任に保護者への周知を呼び掛けて、学級通信などで保護者に知らせたり、学校メールで案内文を出したりしている。	A	・10月のふれあい道徳授業参観で多くの保護者に学習の様子を観ていただくことができた。「道徳日より」では保護者の感想も載せて発行することができた。 ・アンケート結果では、98％の保護者が「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答えた。	A	・妥当である。 ・児童がすべての人や物に対して、やさしく思いやりを持てるようになれば、争いやいじめはなくなる。	やさしくプロジェクト
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等（いじめの認知・防止のための取組・事業対応等）について組織的に対応ができていてと回答した職員が90％以上を目指す。	・教育相談週間を、年1回以上実施する。 ・毎月の心のアンケートを実施し、気になる点は児童に聞き取りを行ったり、実習に気を配ったりし、スズキ校務等に記録を残す。 ・SCIによる心の授業を各学年1回ずつ行う。 ・毎月1回、共通理解の時間を設定し、支援の必要な児童については、共通理解の場で確認する。	B	・心のアンケートを毎月実施し、ヒアリング結果の共有を行っている。 ・児童の様子に保護者の記入方法を共通理解を再度行う必要がある。 ・共通理解で名前が挙がった児童の様子を職員間で共有し、対応している。	A	・「いじめ」防止等について組織的に対応していると回答した職員の割合は、100％であった。QU分析では学級内の不安を感じている児童を把握して手立てを考慮することができ、実効性があった。教育相談週間の時間は補欠計画を立てて全校で対応できていた。毎月の心のアンケートの結果を生かして丁寧に対応できた。さらに、保護者の「お子さんは、思いやりの気持ちもち、友達と仲良くできている」と回答した割合は、99％であった。	A	・妥当である。 ・嫌なことがあったとき、後々に論ずより、すぐに取り上げて児童に投げかけた方が有効であると思う。	やさしくプロジェクト
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上を目指す。	・体験活動において児童に活動の見直し、及び学習の振り返りを行う。 ・キャリアパスポート記入週間を設定する。 ・キャリアパスポートを活用し、学年や学期の目標及び振り返りを行う。（年2回）	B	・総日記やお礼の手紙などで振り返りを行っている。 ・キャリアパスポート記入週間を設けることで、意識して取り組むことができている。	A	「自分のよいところが分かり夢や目標をもって努力している」を肯定的に回答した児童は94.9％であった。保護者の意識改革は必要と考えられる。	A	・妥当である。 ・目標をもつてがんばってもらいたい。できれば、地元に残ってほしい。 ・保護者は、がんばってほしいと思うので、児童の努力が足りないと思いがちである。保護者に、実践について具体的に話したらどうか。	やさしくプロジェクト
	○あいさつ・返事の励行	○アンケートで「地域の方にもあいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85％以上になることを目指す。	・あいさつや返事の仕方を具体的に指導するとともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・児童会活動や委員会などによる挨拶の取組を実践する。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、まちコミメール等を通してあいさつ指導を行うような働き掛けをする。 ・登校班チェックを行い、チェック項目に「地域の方への挨拶」についての項目を入れ振り返らせる。	B	・運営委員会が毎月初めに挨拶運動を継続して行っている。 ・6年生が学級で話し合い、挨拶運動を始めた。挨拶の仕方についてのビデオも作成し、各学級でビデオを視聴した。 ・挨拶が上手だった児童については、放送や学級通信で紹介している。 ・登校班チェックを2学期初めに行う予定である。	A	・「地域の方にも進んであいさつ・返事ができている。」と答えた保護者は89.9パーセントで昨年より少し低かったが、児童は98％で、昨年よりも高かった。11月に登校班チェックを行い、児童の意識は高まった。 ・運営委員会のあいさつ運動や「あいさつ名人」の放送だけでなく、6年生による挨拶運動もあったので、日頃声の小さい児童も、意識して取り組むことができた。	A	・妥当である。 ・自分たちもあいさつはするが、児童から先にしてもらおうと大変うれしい。	やさしくプロジェクト
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者を共に85％以上を目指す。	・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん」をチェックする。 ・専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を講演会や学級指導などで継続して行う。 ・「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する授業を年1回実施する（担任及び栄養教諭とのTT）。	B	・1回目の生活がんばりカードは、夏休み明けに行った。 ・SNSやゲーム依存症に関する講演会については、4月の授業参観時に全学年の児童が講話を聞いた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する保健指導を全学年に行った。	B	・学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」が実践できていると答える児童が90％以上達成できたが、保護者は83.7％と達成できなかった。しかし、昨年度の結果と比べ、児童保護者共に実践できた割合は増えた。 ・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん」をチェックできた。 ・4月の講話をもとに各学級でSNS等の利用について指導を行った。 ・食育に関する授業、生活習慣に関する授業を全学年で実施することができた。	A	・妥当である。 ・今になって、つくづく生活習慣の大切さを身にしみて感じる。しっかりと指導してもらいたい。 ・生活習慣が変わる中、早寝・早起き・朝ごはんの提唱や実践にご尽力いただき、ありがたい。	たくましくプロジェクト
	○志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童及び、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85％以上を目指す。	・各学年で、外部（地域の老人会等）や地域ボランティアと連携した学習活動を2回以上行う。 ・事後指導では、（発表会、感想などの手紙での交流）だけでなく、地域の良さに気付くような手立てを意識して活動を行う。	B	・1、2年生は卒し、2、3年生は玉ねぎ収穫、4年生は稚魚放流、塩田川講話、5年生はもち米作り、6年生は塩田津講話、ミシンサボター、そば作りに来てもらっている。 ・お礼の手紙は学習活動後に書いて渡しており、地域の方々に支えてもらって活動することに気付くことができている。	A	・学校評価アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童及び、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者が100％であった。 ・年間を通して、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を行うことができた。	A	・妥当である。 ・今後、コミュニティ等で様々な活動を行い、多くの方に顔や名前を覚えてもらったら、犯罪などに巻き込まれることもないと思う。 ・コミュニティの方々が、応援や様々な活動をしていただき、ありがたい。	たくましくプロジェクト
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月当たり45時間以内）を遵守する職員を80％以上を目指す。	・定時退勤推進日（毎週金・第3水）の完全実施（毎掲示物の提示）。 ・反省をもとに分享業務等の分担の見直し（年2回）。 ・デジタル化の推進	A	・時間外勤務（4月～5月）は令和5年度43:46時間に対して令和6年度は36:84時間と減っている。 ・反省等をもとに業務内容の見直しを行っている。 ・児童・保護者・職員への諸調査等は、デジタル化が進み、集計等の事務時間が削減できている。	B	・時間外勤務（4月～12月）は令和5年度35:15時間に対して令和6年度は29:04時間と減っている。 ・職員アンケートの「定時退勤日を守っている」と回答した職員は、62.5％であり、更なる業務内容の見直しが必要である。	A	・妥当である。 ・無理をしないで、程々にしてほしい。先生方が健康を壊すと、児童にもよくない。 ・取組をされているが、個々の職員の技量によると考えるため、解決は難しいと考える。	管理職
	○事務時間の確保	○会議や打ち合わせの時間の削減を目指す。	・放課後の事務時間確保のために連絡会をなくし、職員会議等を計画的に行う。 ・学期末及び年度末事務のための週間の設定（年2回）。 ・昼休みの児童への指導の時間をなくすために、委員会活動の進め方などの見直し。	B	・毎週火曜日に行っていた職員連絡会の回数を減らすことで、作業時間の確保ができているが、ケース会議等の突発的な話し合いもある。 ・1学期末の成績処理のため、事務週間の設定した結果、5時間を確保できた。 ・昼休みに集会活動の指導を行わず、掃除時間等を活用して適宜指導する。	A	・職員アンケートの「業務改善で勤務時間内での放課後の時間を確保できた」と回答した職員は、100％であった。 ・掃除時間を利用して地区児童会や教育相談、全校集会をしたり、給食時間にオンラインで表彰をしたりする等、時間確保を行った。	A	・妥当である。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の支援体制の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○アンケートで「児童の困り感や実態を把握し、きめ細やかな指導・支援を組織的に行うことができる」と答える職員が90％以上になることを目指す。	・支援を要する児童の情報交換を、月1回行い、「ひまわり」に記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年2回以上開く。 ・保護者に対して啓発活動を年1回行う。 ・特別支援についての啓発活動を各学年1回以上行う。	B	・全学年児童に、実態に合わせて分かりやすい言葉で困り感と合理的配慮についてプレゼンテーションを行った。児童は一人ひとり支援が違ふことを理解した。 ・児童についての情報共有を行う中で、児童の心理面の状況とその配慮についても共通理解を行っている。 ・1学期に、事例研究会を行った。講師より研究会の良さや児童が落ち着いていることをほめていただいた。巡回相談、ケース会議等充実している。 ・保護者への啓発活動については、10月に紙面で、2月に来年度入学する児童の保護者に対して、対面で行う予定。	A	・職員のアンケート結果から、困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を組織的に進めていると答えた職員は、100パーセントであった。ケース会議の充実、困り感のある児童に対する適した学習環境の調整ができた結果であると考えられる。 ・保護者のアンケート結果からは、学校はきめ細やかな指導・支援のもとに児童理解に努めていると答えた保護者は、94.8パーセントであった。 ・うれしの特別支援学校より巡回指導をいただき、助言を生かして、特別支援学校的知的障害児童への指導支援のあり方が充実してきている。	A	・妥当である。 ・組織的に100％対応されていることは、ありがたい。保護者も先生方も一人ではどうにもできない。学校の姿勢が、児童や保護者に伝わっているので、よろしく願いたい。	特別支援コーディネーター

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・保護者に家庭学習の在り方について、説明をしていく必要がある。学校からの宿題だけではなく、児童自ら積極的に学習に取り組んでいくことができるように保護者に啓発していく。 ・児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて取り組む意欲や態度を育成するため、教育課程を見直し、地域と連携しながら、体験活動の充実を図る。 ・行事内容や校務分掌等の反省を行い、児童数・職員数の減少に対応した行事の精選や校務分掌等の見直しを図り、業務改善及び教職員の働き方改革を推進していく。
----------------	---